



認知症を知る～認知症の物忘れとは？～

高齢化社会となり、認知症と疑われる人や診断を受ける人が増えています。

多久市でも介護を受けるきっかけになった疾患は、「認知症」が第1位という結果も出ています。
(佐賀中部広域連合平成26年1月～12月要介護認定の結果より)

Hello!



福祉

多久市地域包括支援センター
(多久市役所 福祉課内)

☎ 75-6033

多久市地域包括支援センター（おたつしゃ本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。

認知症とは、脳に障害が起きることで、これまで培ってきた記憶や思考などの能力が徐々に低下し、日常生活に支障をきたす状態のことをいいます。症状として代表的なものが「物忘れ」です。認知症について関心を持ち、早め早めに対処することで、進行を遅らせたり、認知症の種類によっては改善することもできます。加齢による物忘れと認知症は違うものです。正しく認知症を理解しましょう。



加齢による物忘れ

老化による脳の機能低下

- 出来事の記憶の一部を忘れる
(ご飯を食べたことは覚えているが、何を食べたか思い出せない等)
- 物忘れを自覚できる
- ものの名前を忘れることは多いが、ものごと自体はさほど忘れない
(顔は分かるが、名前を思い出せない等)
- ヒントを出すと思い出せる
- 年次や日付、曜日を間違えることはあるが、人や場所、時間は正しく認識できる



日常生活に大きな支障は出ない

認知症

脳細胞の減少など脳の病気

- 出来事の記憶全体を忘れ、まるごと消える（ご飯を食べたこと自体を忘れる等）
- 物忘れを自覚できない
- ものの名前だけでなく、ものごと自体も忘れる
(親しい人の顔も名前も思い出せない等)
- ヒントを出しても思い出せない
- 人や場所、時間が正しく認識できない

※認知症の種類や進行の状況等により、一人ひとり症状が異なります



日常生活に支障が出る

この違いを理解して、普段の生活の中で早めに気づくことがひとつのポイントです。何か気になることがあれば、早めに多久市地域包括支援センターにご相談ください。

➡次回は認知症の種類についてお知らせします。